

力走。



歴史と伝統の 第59回長島一周駅伝競走大会

11月15日、よく晴れた秋空の下、第59回長島一周駅伝競走大会が開催されました。

毎年2月に開催される、鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競争大会に次いで2番目の歴史を刻む本大会。今回は、中学校の部に4チーム、一般の部に18チーム、合わせて22チームが参戦しました。

午前9時、鹿児島県沙門太鼓「響流」による和太鼓の演奏で幕を開けると、2つの部門ごとに前年度優勝チームから優勝旗が返還されました。大会会長を務めた川添健町長が「仕事が終わった後の夕方や夜間、休

日に練習に励んできたことだろう。これまでの練習の成果を思う存分発揮してほしい」とあいさつしました。選手を代表して、酒井健聡君（長島中学校3年）が「1本のたすきに思いをつなげ、最後まで全力を尽くし、感動を与えられるような走りを見せます」と力強く宣誓しました。

長島町役場指江庁舎前をスタート・ゴールとする今回のコース。午前10時、号砲が打ち鳴らされると、22人の選手が、それぞれの思いを託したたすきを肩に、一斉にスタートしました。

沿道には地域住民が詰め掛け選手らを励ましたほか、園児らが大きな声を張り上げ応援しました。

選手らは、高低差が激しい長島路を力の限り走り続け、途中繰り上げスタートを実施したものの、全てのチームがゴールテープを切りました。

14区間で争われた中学校の部は平尾中学校が、11区間で競った一般の部は獅子島駅伝クラブが優勝し、前年度の記録から27分以上短縮した、鹿児島相互信用金庫チームが永田杯（躍進賞）を受賞しました。

↑ガッツポーズでゴールテープを切った獅子島駅伝クラブ、アンカーの濱史郎選手と優勝を果たした同クラブのメンバー（囲み写真）